

5

筑波大学 4 年 大野 紗英

そばた会議物語

-外湯から広がる語らいの街-



そとばた会議物語

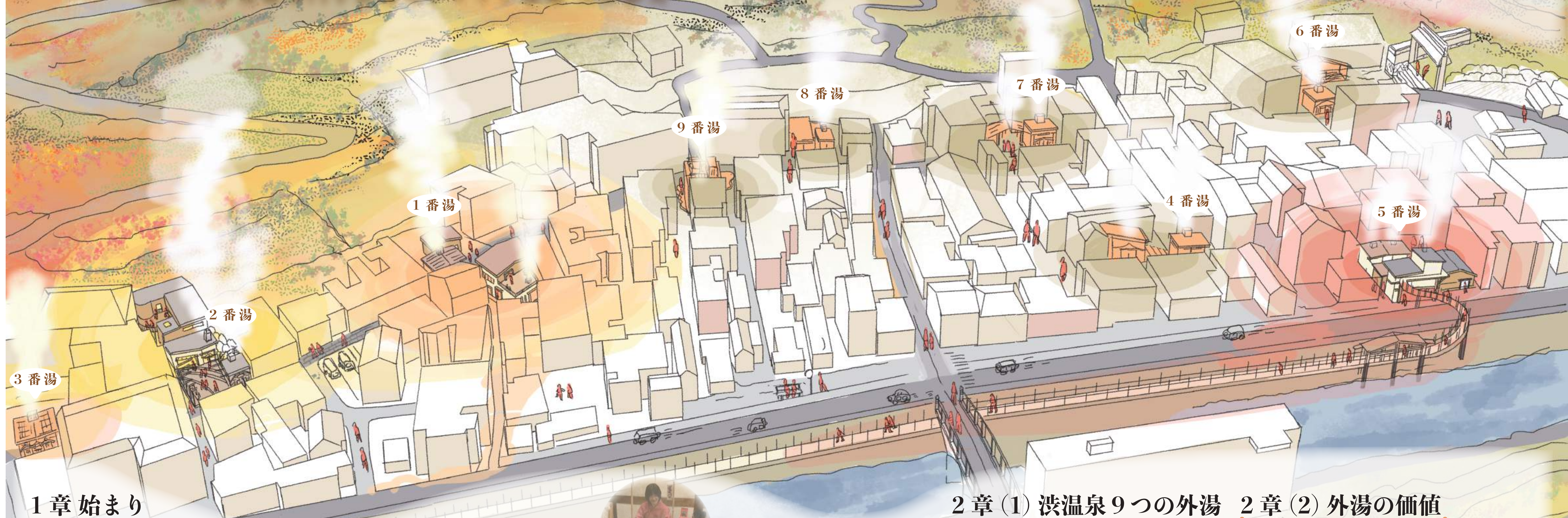
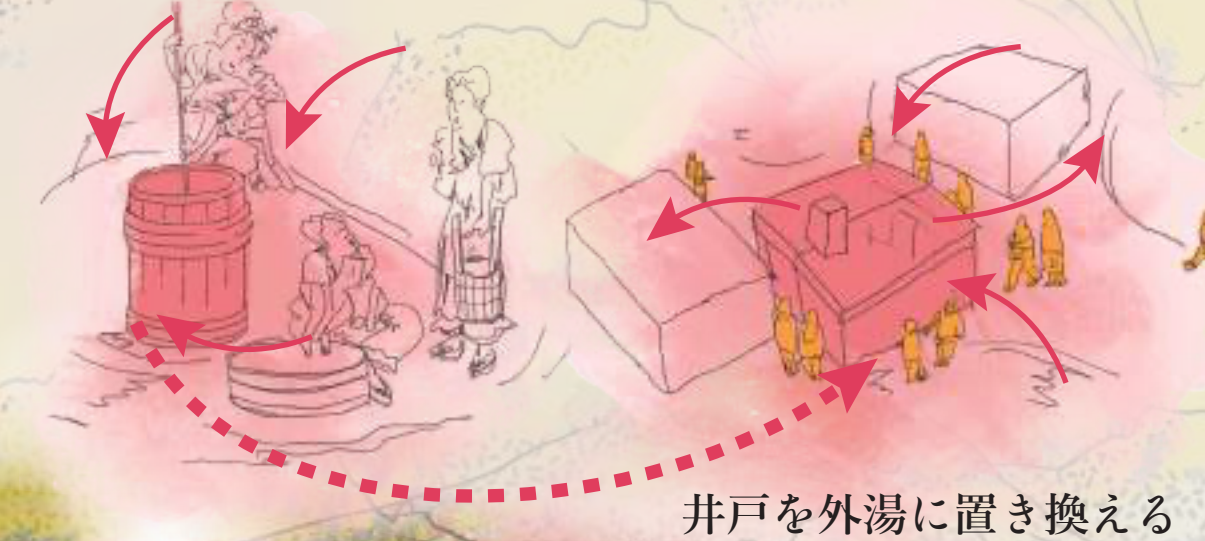
— 外湯から広がる語らいの街 —

筑波大学芸術専門学群環境デザイン領域 大野紗英

0 章 コンセプト

井戸端会議—かつて長屋の女たちが共同井戸に集まり水汲みや洗濯をしながら世間話や噂話に興じたさま。
そとばた会議—渋温泉の外湯で生まれた語らいが外湯周辺に持ち込まれ、段々と周囲に波及していくさま。

これは、語らいが生まれる外湯の価値を、井戸端会議改めそとばた会議空間により、渋温泉全体に広げていく未来を描いた物語である。



1 章 始まり

2022年夏のこと。長野県の渋温泉でアルバイトをする機会を得た私は、日々を過ごす中で人と出会い、対話を通してこの地域で大切にされてきた語らいの文化を知った。SNSの普及やオンライン授業などで人との関わりが薄れていることを実感していた私は、初対面でも自然と語らい合えることはとても貴重で尊い文化であり、残していくべき風景であると感じた。



挿話1. 会津屋 おばあちゃん店主

私は外から来た人と話すのが大好きなのよ。外湯でよく話すわよ。ポケ防止にもなっているわ。



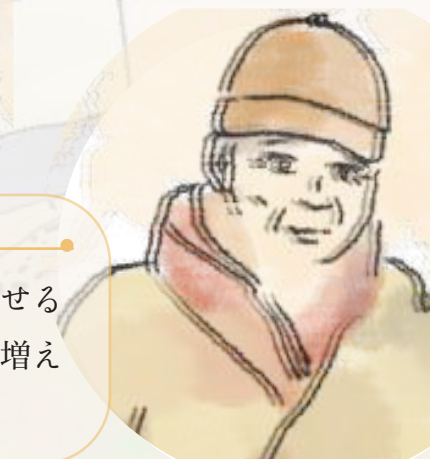
挿話2. 旅の宿初湯 女将さん

イベントとかを通して私たち住民もお客さんも関係なく盛り上げられるときは本当に楽しい良い時間だと思う。



挿話3. 小松屋 息子さん

外湯ではいろんな所から来た人と話せるから面白いね。もっとそういう場が増えたら楽しそうだと思うよ。



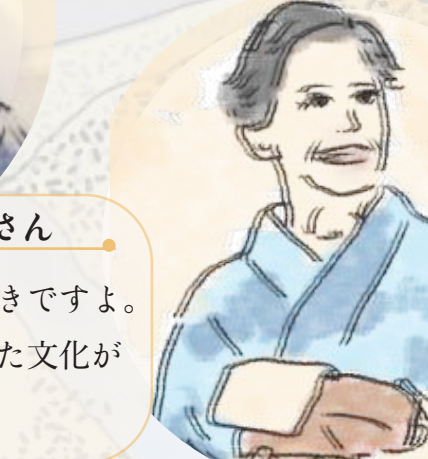
挿話4. 道で出会ったおじいちゃん

この地域は本造が多くて、火事が心配。いざという時のためにコミュニケーションを取るのが大事だね。



挿話5. 古久屋 運営者のおじさん

この地域の人たちは皆本当に話好きですよ。古くから情報交換など協力していた文化があります。



挿話6. 宿泊客の婦人

さっき外湯で若い女の子とお話をしました。つい長話しちゃってのばせそうに。もっと話したかったなあ。



2 章 (1) 渋温泉 9つの外湯

渋温泉街は、600mほどの範囲に地域資源を生かした9つの外湯（＝共同浴場）が建ち並ぶ。

2 章 (2) 外湯の価値

「語らいが生まれること」

そんな外湯の価値は「語らいが生まれること」である。しかし、外湯は様々な理由から住民と宿泊客の利用に限られている。外湯の価値を生かし、語らいの文化を多様な人々に波及できれば、渋温泉街はさらに賑わうのではないかな？



3 章 課題－外湯周辺の空間活用

このような渋温泉は、奈良時代から共同浴場としての外湯を中心に賑わい繁栄してきた。



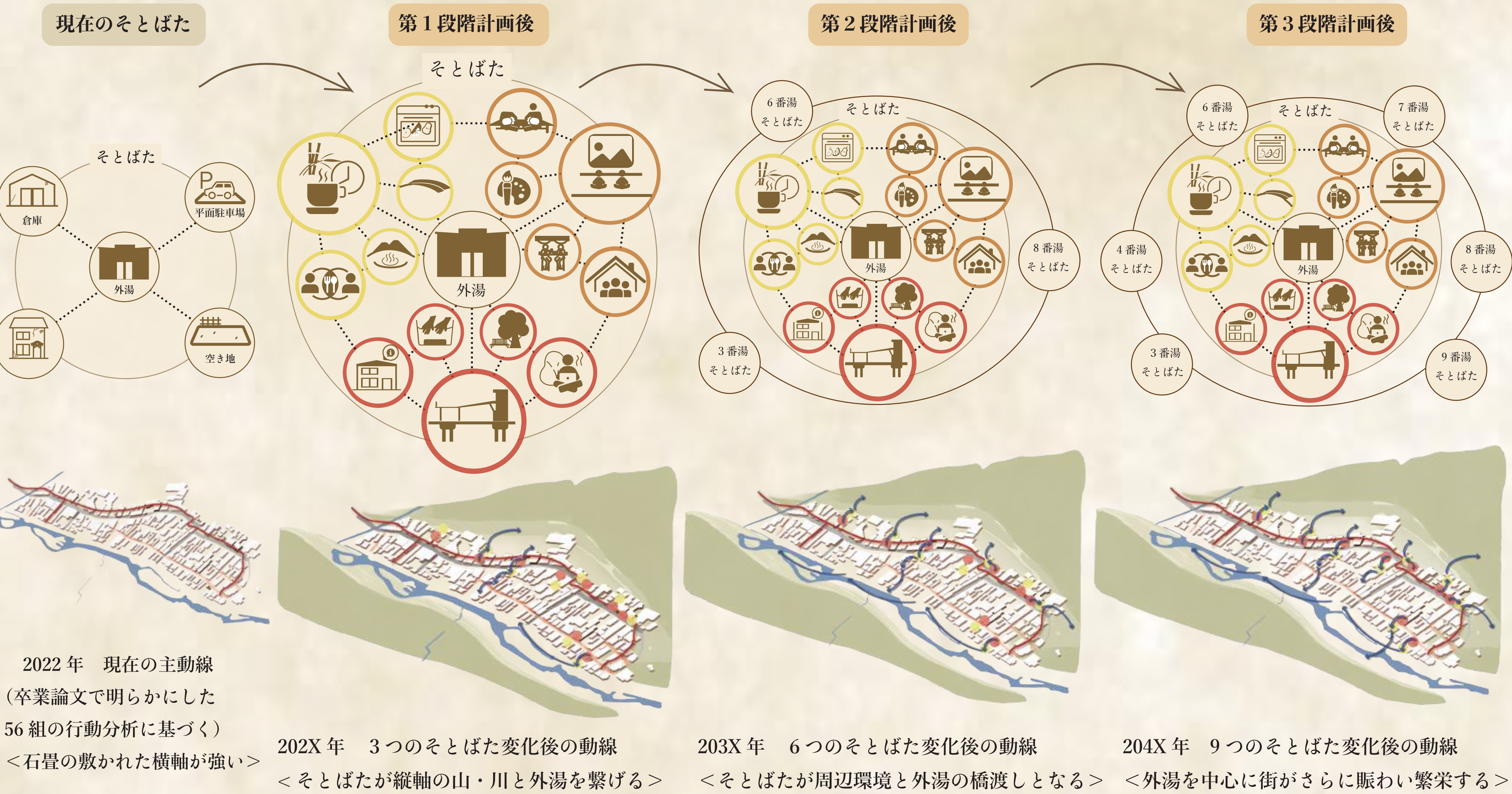
だが今、外湯の周りは後継者不足等により廃業した旅館や跡地の駐車場へと変貌している。



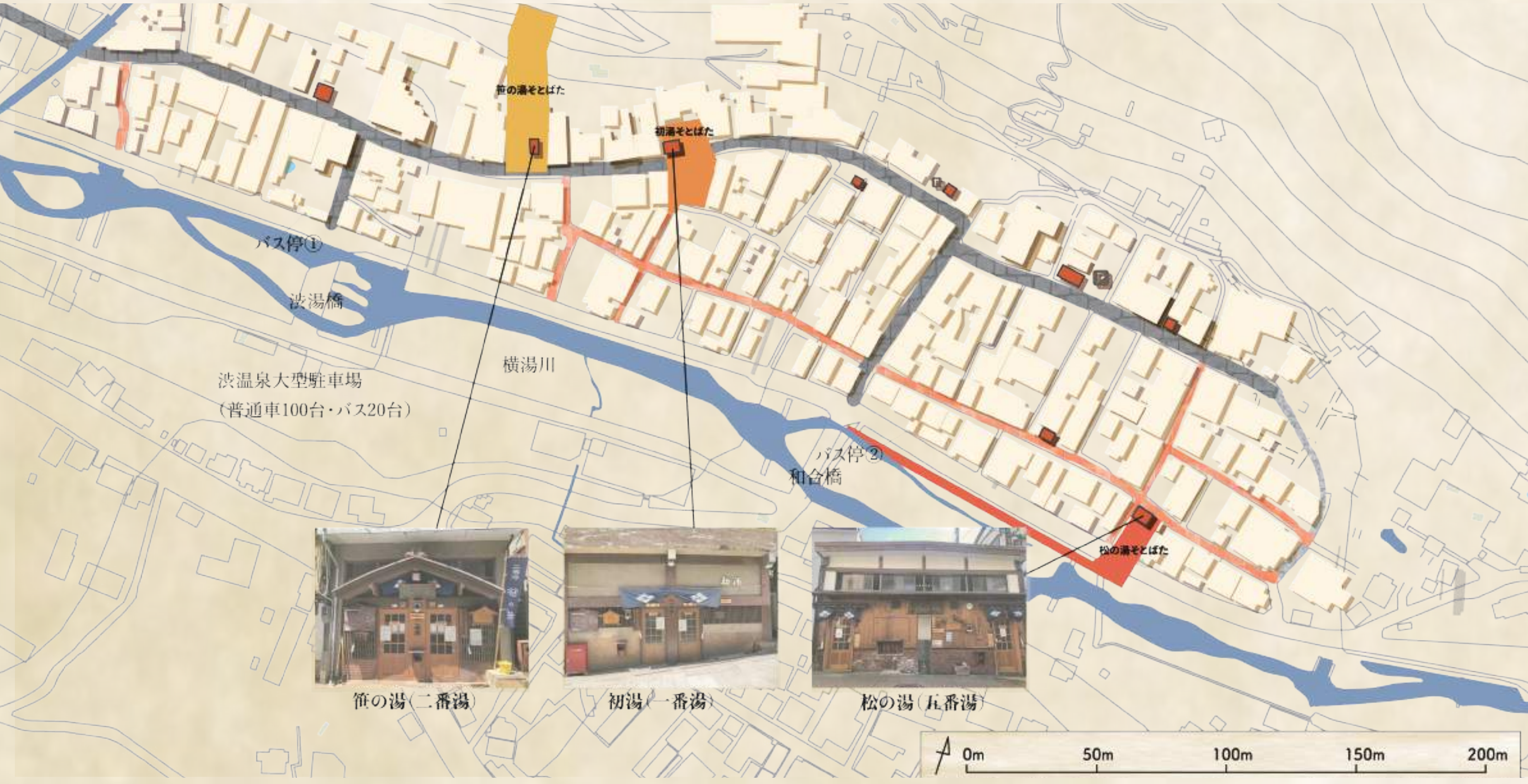
価値ある外湯周辺のこのような空間＝そとばたを変えることで、外湯を利用していない人びとにも語らいの文化を波及させ、温泉街のさらなる賑わいをつくり出す。

4 章 計画－外湯を通して、渋温泉全体が「語らいの場」となる

最終的には渋温泉にある9つの外湯を全てそとばたにする。本計画では、その第1段階として3つの外湯とその周辺を詳細に計画することとした。



5 章 (1) 計画敷地 3つのそとばた 9つの中でも課題の多い場所を第1段階の敷地とする。



5 章 (2) そとばた会議空間のプログラム

そとばた空間に挿入されるプログラムは、外湯から出た人の湯上がり空間だけでなく、コミュニティの拡張空間として外の多様な人・事と繋がる場である。

湯上がり空間 × 多様な人・事が語らい合う複合空間を
周辺環境・地域資源・渋温泉に関わる人たちを
読み取って計画する



6章(1) 外湯の環境構成要素 外湯の価値である「語らうこと」に影響していると考えられる事柄を導くため、①外観立面図 ②平面図 ③内観スケッチの3視点から外湯を調査した。

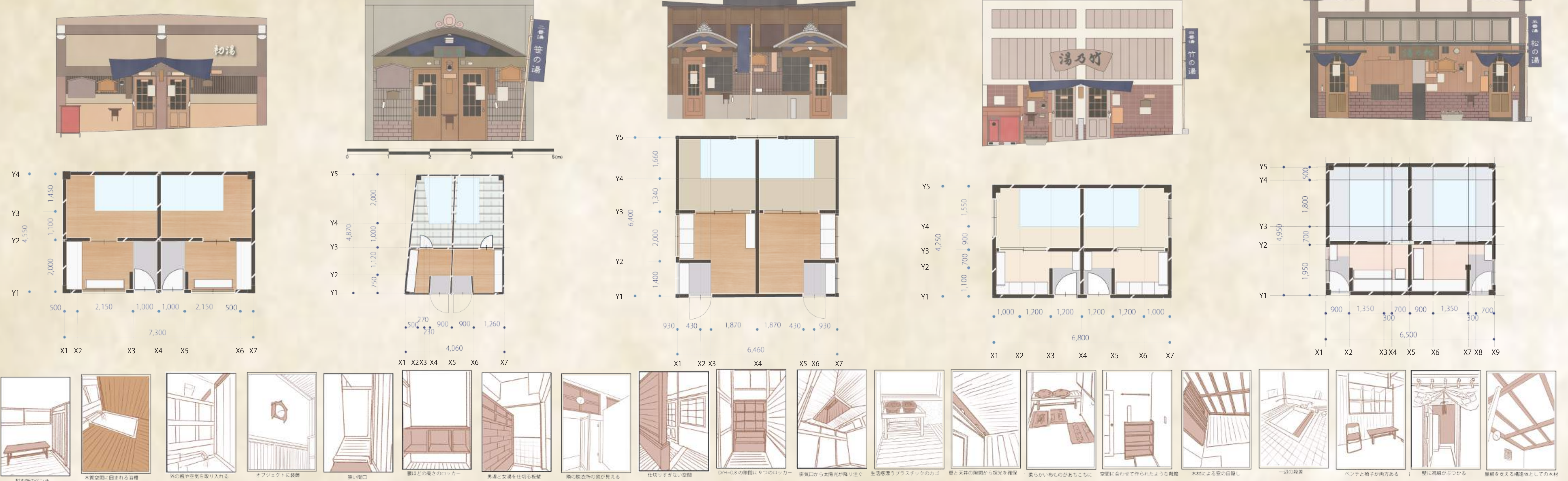
初湯（1番湯）

笹の湯（2番湯）

綿の湯（3番湯）

竹の湯（4番湯）

松の湯（5番湯）



目洗の湯（6番湯）

七操の湯（7番湯）

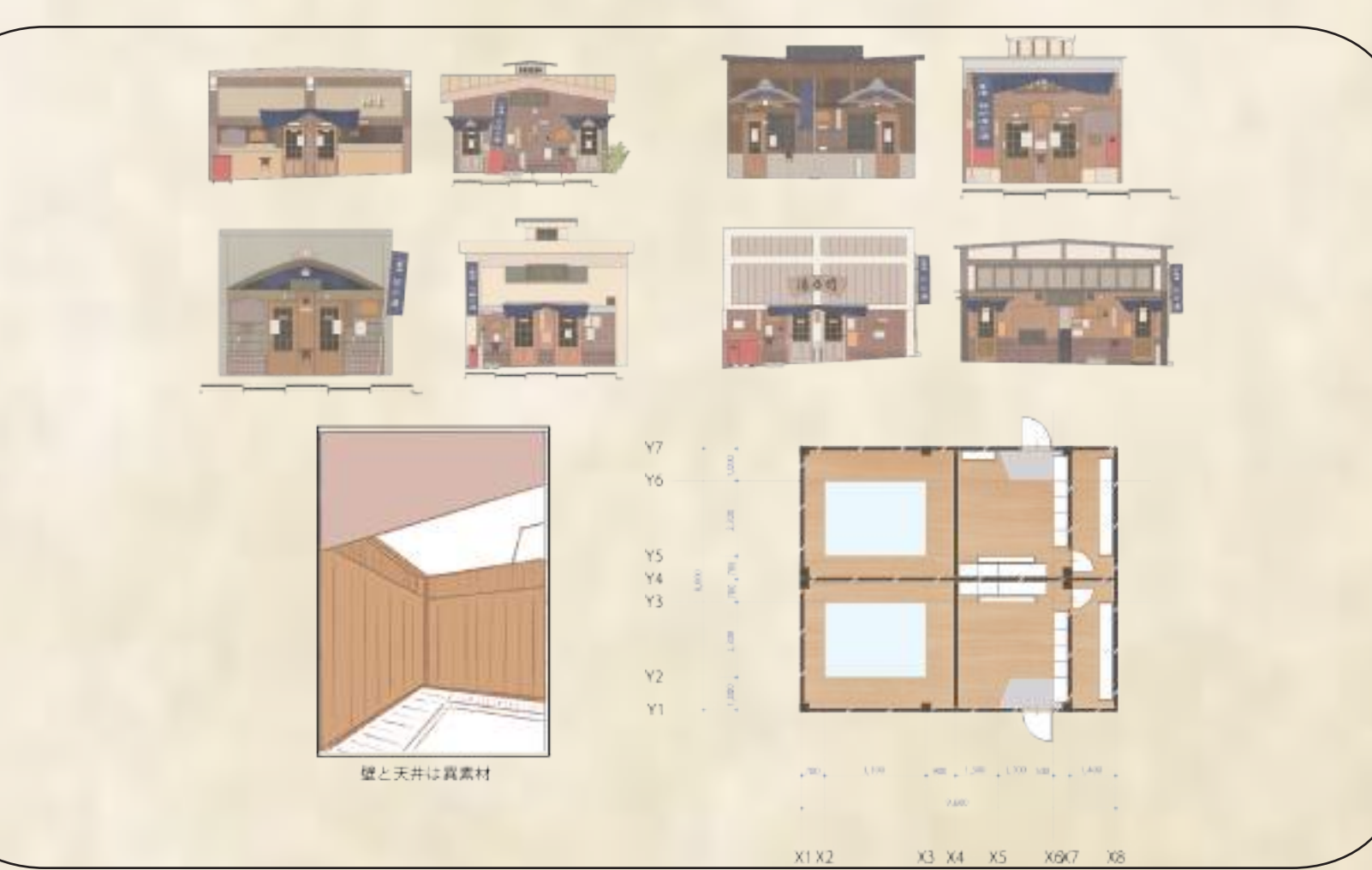
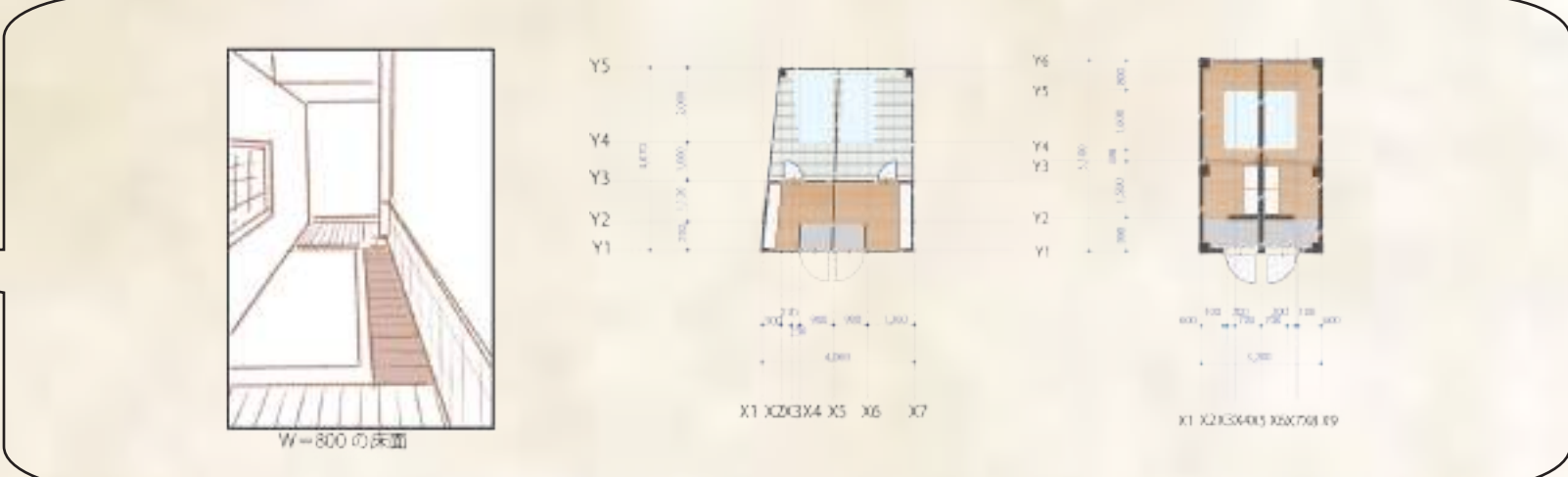
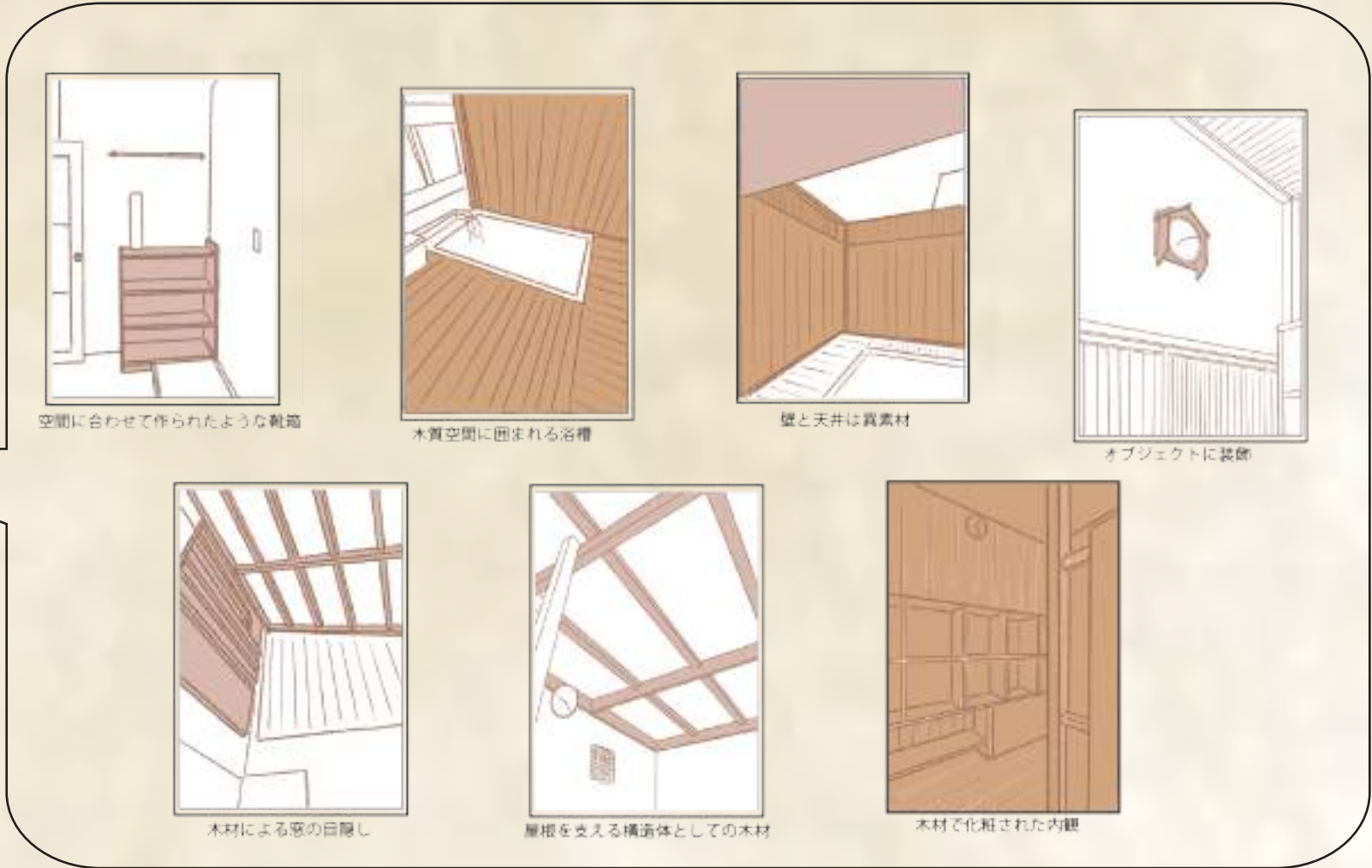
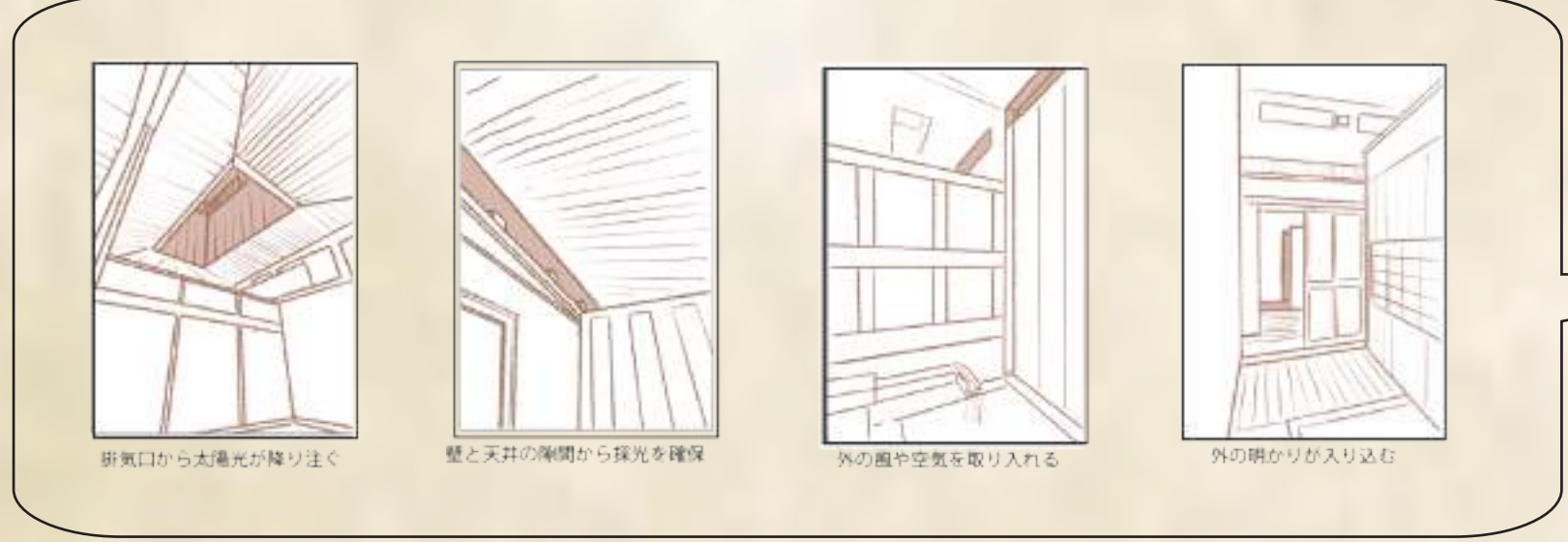
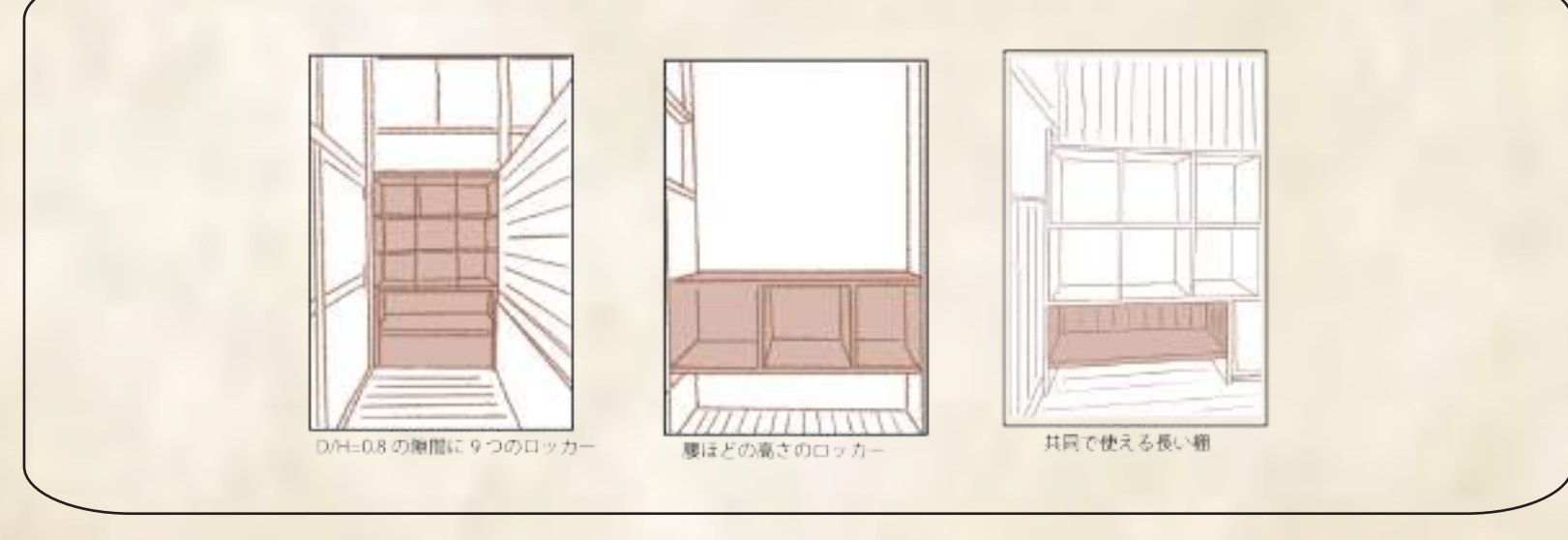
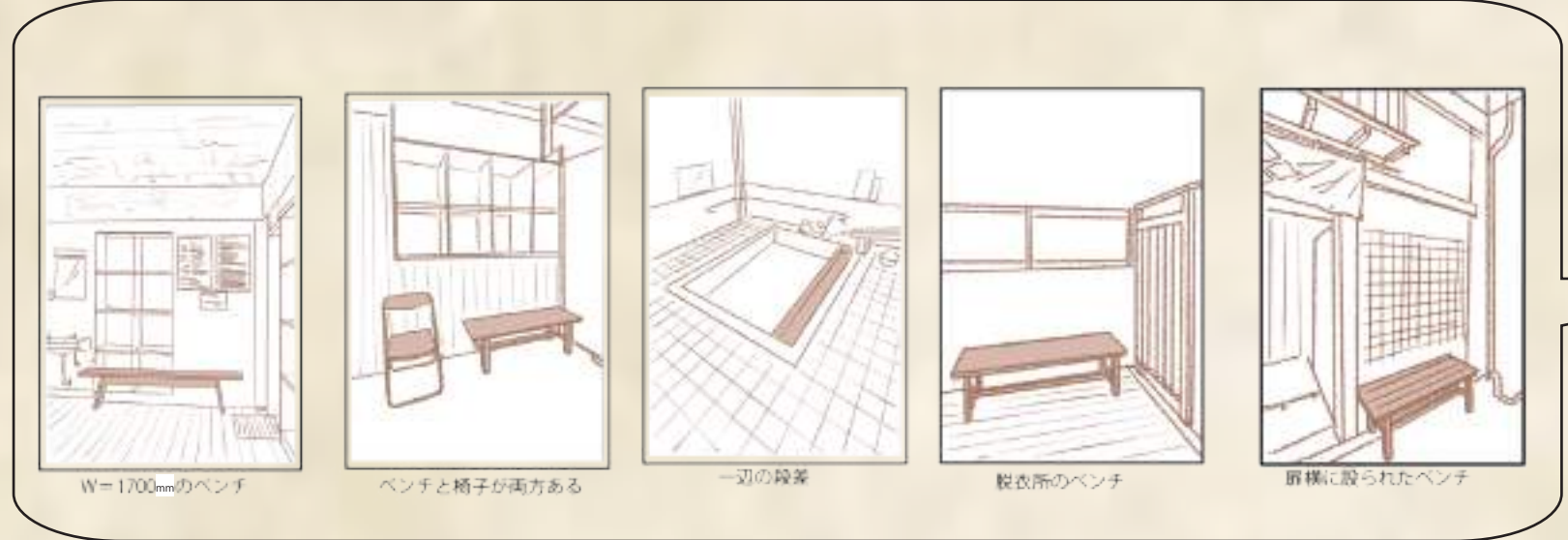
神明滝の湯（8番湯）

渋大湯（9番湯）

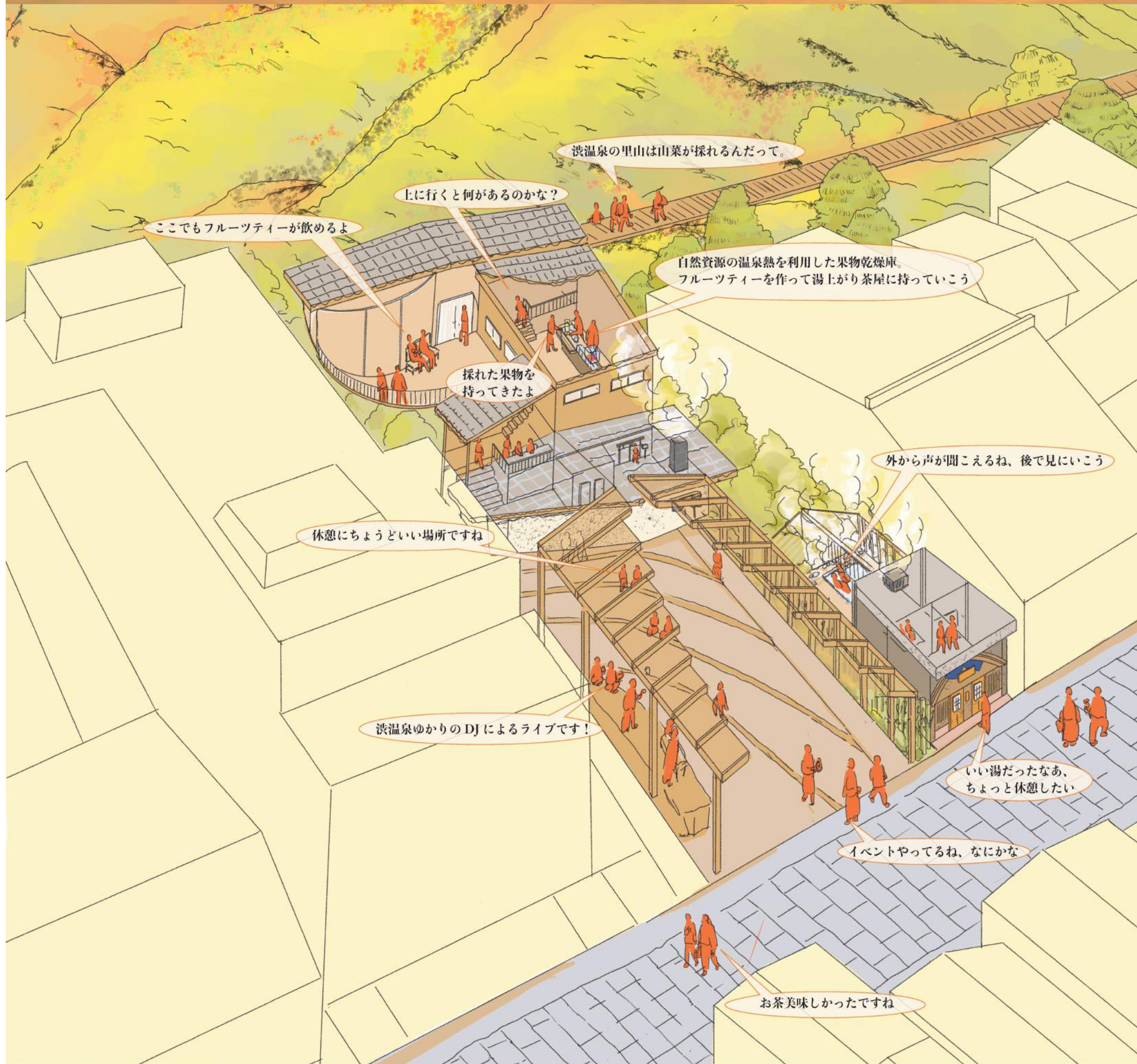


6章(2) 語らいが生まれやすい空間をつくるための12項目

外湯の要素を引き継いだそとばた会議空間は、外湯で生まれた語らいが緩やかに持ち込まれると同時にさらに多様な人々が新たに語らう場となる。
外湯の環境構成要素から、語らいやすい場をつくるために必要な事柄を考察、12項目に導いた。



笹の湯（2番湯） そとばた 地域資源を味わいながら語らう



コンセプト 語らいを農家へ、そして山へ広げる

笹の湯は背後に里山が広がっており、この土地の自然の豊かさを感じることができる。笹の湯のそとばたは、長野の特産物であるりんごをはじめとした果物や里山の山菜を味わうことを通して語らう空間である。



湯上がり茶屋



まちの台所



果物乾燥庫



湯上がりひろば



笹の湯露天風呂

計画敷地

笹の湯の隣には廃業した旅館が建つ。山と繋がる可能性を秘めた空間である。



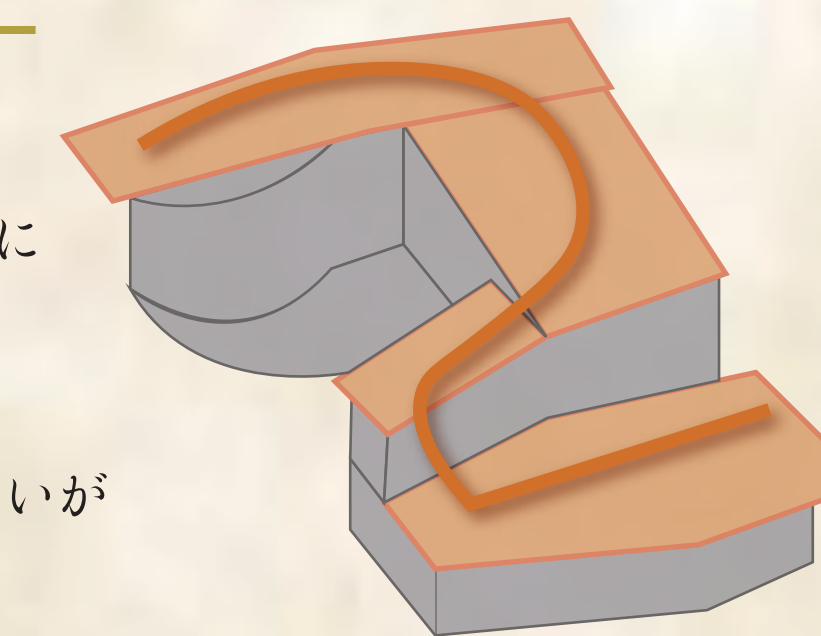
現在の外湯と
廃業した旅館
(外湯左)→



概要1-デザインの意図

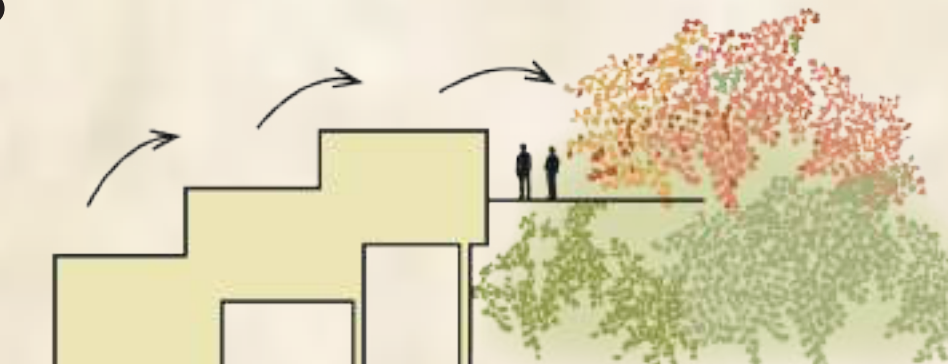
■「2」の屋根形状で山へ導く

笹の湯（2番湯）のそとばたは屋根形状に工夫を凝らし、人をそとばたへ、さらにそとばたの奥の山へと導く。外湯で生まれた語らいを灯火として語らいが山へと広がっていく。



■外湯のボリュームを重ねる

導いた外湯環境構成要素をもとに、小規模なボリュームを機能ごとに重ねる。地から山へと自然に歩み進める動線。



概要2-笹の湯コミュニティの拡張手法

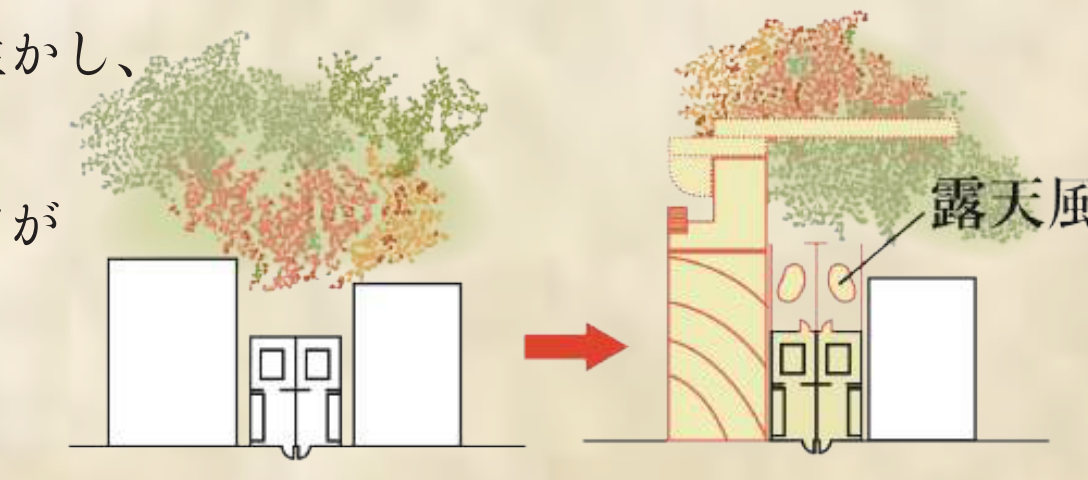
■農家・山菜狩り名人と外湯利用者が語らう

住民と宿泊客のみの利用に限られている外湯の語らいの価値を、食に関わる地域資源を通して農家や山菜狩り名人へと広げていく。



■外湯を拡張し語らいを外へ開く

山に面する笹の湯の立地を生かし、露天風呂を増設する。立ちのぼる湯気や話し声などがそとばたに洩れ出し、賑わいを創出する。



初湯（1番湯） そとばた アートを通して語らう



コンセプト

外湯からアーティストへ広がる語らい

初湯は温泉街の中心地に位置しており多くの人が行き交う。中でも近年、若手アーティストと呼ばれる人々がこの地で活動しているが、彼らのための滞在場所や拠点がない。初湯そとばたは彼らのための拠点と、アートを通して人々が語らう場の複合空間である。



湯上がりギャラリー



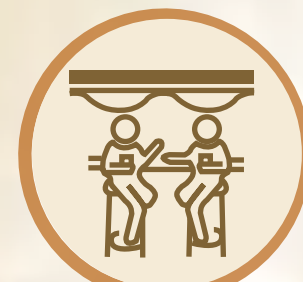
アーティストレジデンス



制作場所



根曲がり竹細工工房



語らいの庭

計画敷地

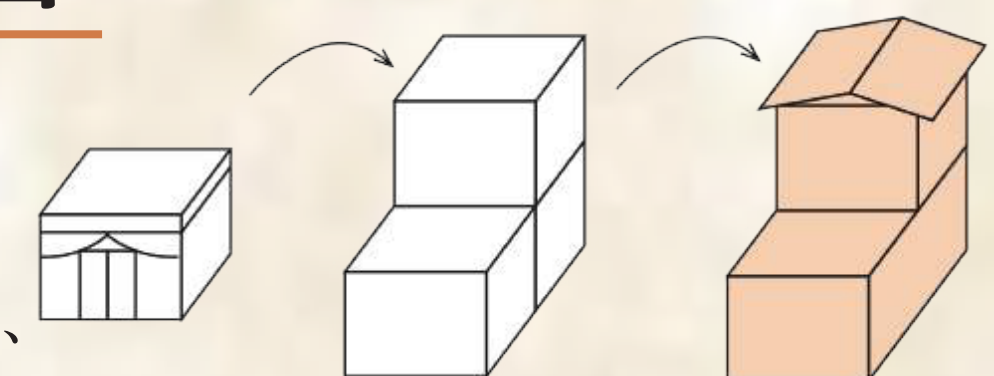
温泉街の中心に位置する初湯向かいには空き家が存在する。



概要1-デザインの意図

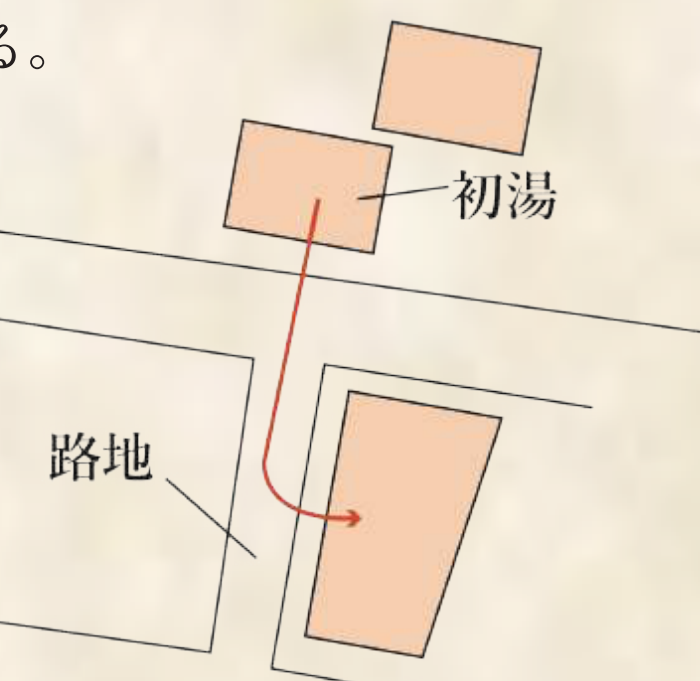
■外湯の形態変化

初湯の北向かいのそとばたには湯上がりギャラリー、制作ゾーン、アーティストレジデンスの複合空間をつくる。外湯の寸法ボリュームを重ね、形態変化させる。



■「1」の動線

初湯（1番湯）から出たところから直接視線がそとばたへと向かうよう、真っ直ぐな「1」の動線を計画する。路地へ導かれる動線により、今まで人が行かなかった路地に居場所をつくることを叶える。



概要2-初湯コミュニティの拡張手法

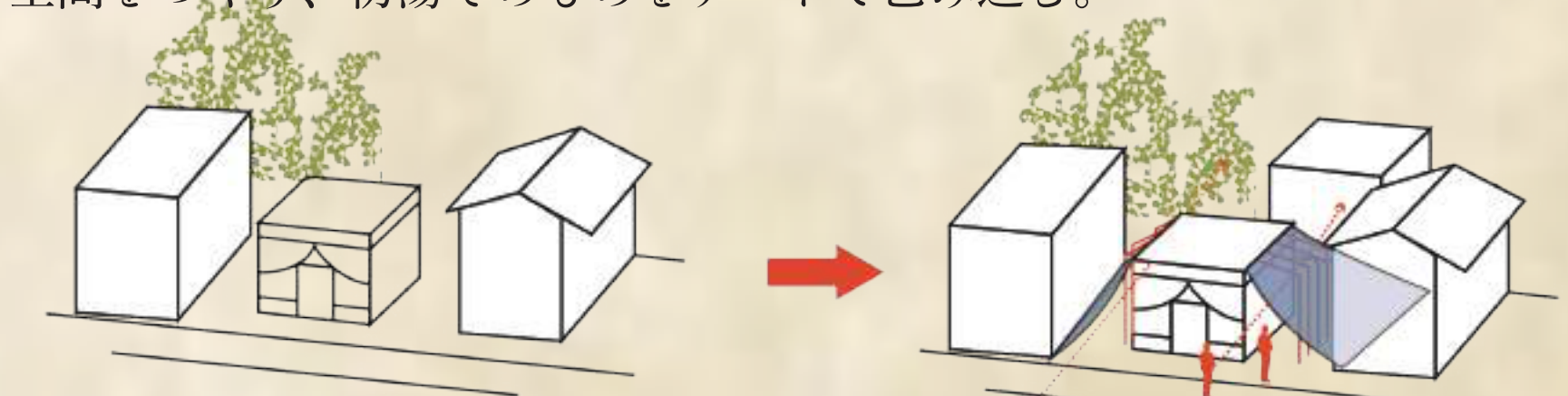
■芸術家と外湯利用者が語らう

若手アーティストや根曲がり竹細工職人の活動拠点をつくる。湯上がり空間を兼ねたギャラリーや制作風景を魅せる空間などにより、新たな語らいを生み出す。

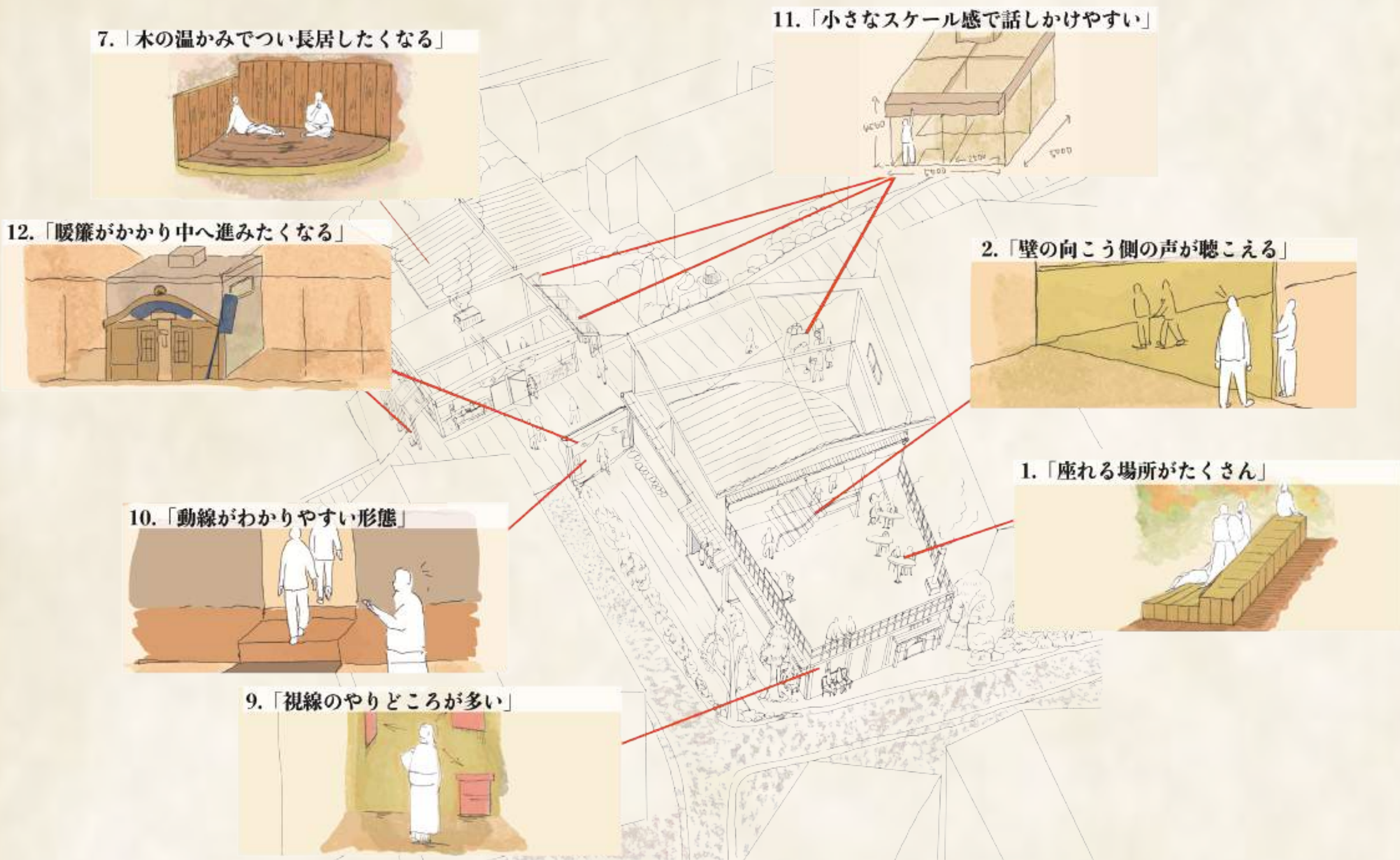


■路地に語らい空間を拡張する

初湯の両端には路地がある。ここに、ウォールアートとしてのギャラリー空間をつくり、初湯そのものをアートで包み込む。



概要 3- 語らいが生まれやすい空間要素の適用



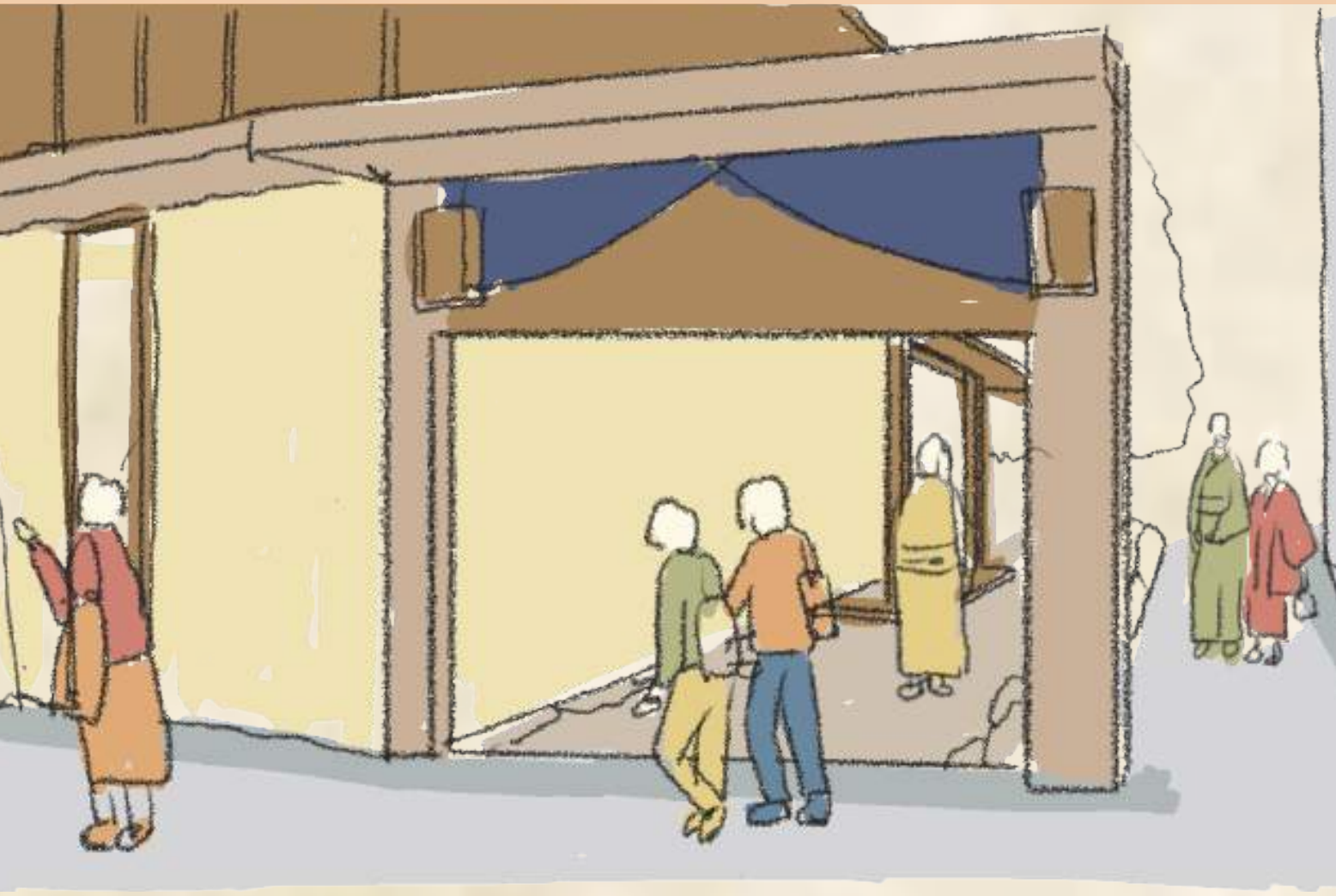
スケッチ 1-1 階内観



北立面 1/100



スケッチ 2- 初湯前から見る風景



東立面 1/100



配置図及び各階平面図 —：新しく生まれた活動 —：昔から変わらない活動



松の湯（5番湯） そとばた 語らいを通して暮らしを補完する



コンセプトー

暮らしを補完する空間での語らい

松の湯の周辺は住宅が多い。また、川に最も近い外湯であり、バスが通る大通り沿いに位置する。松の湯のそとばたは、外湯での語らいを灯火として住民の暮らしを補完する。

さらに、移住者が地域に馴染むための役割ももつ空間である。



温泉洗濯場



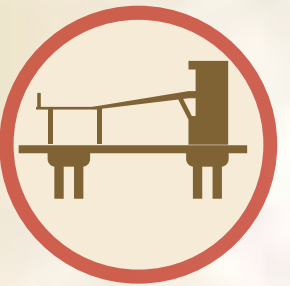
「待つ」の木



在宅ワーカーの
移住



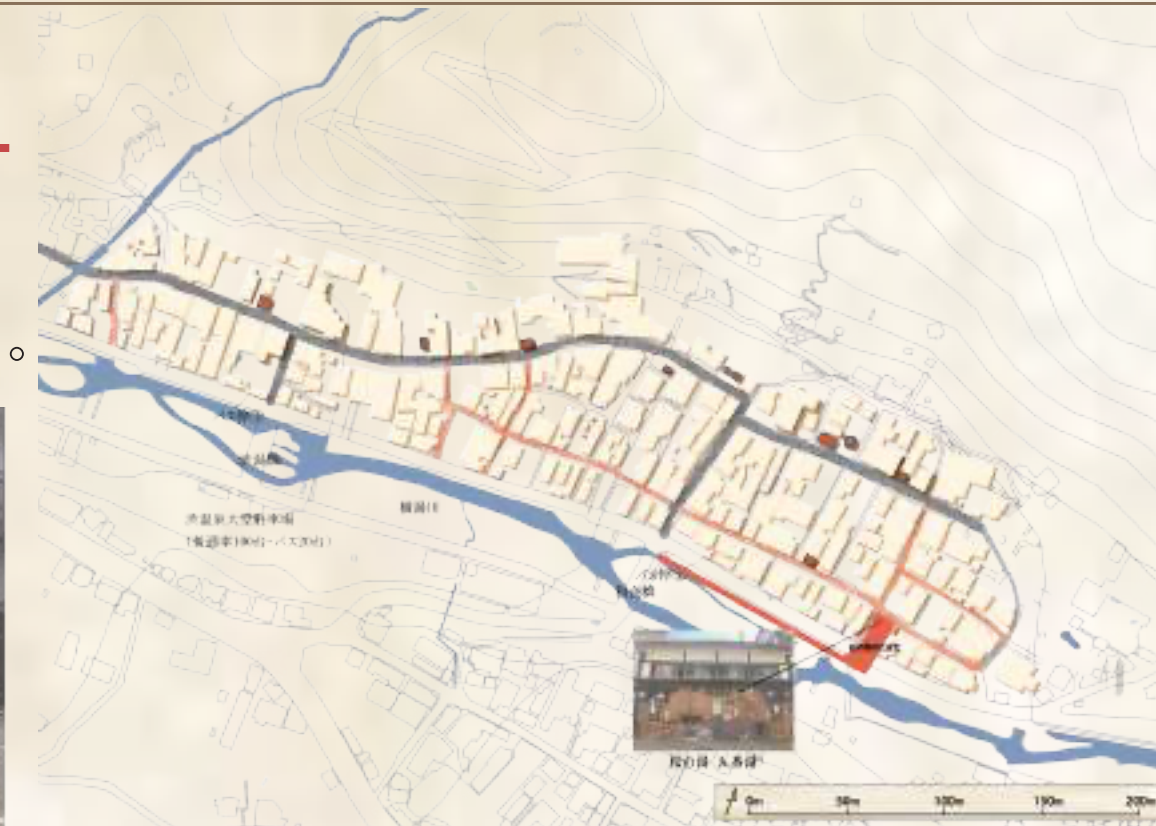
観光案内所



川へ繋がるデッキ

計画敷地

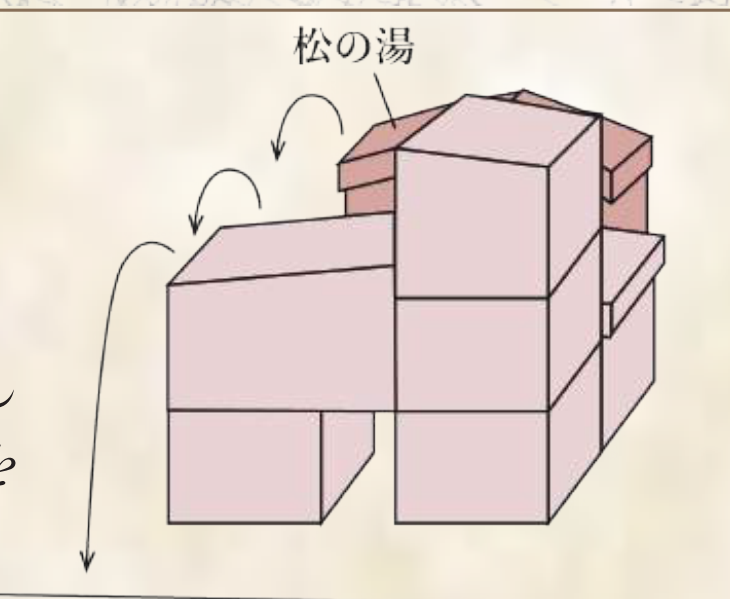
松の湯の裏側は平面駐車場となっている。ここは松の湯と川を繋ぐ可能性を秘めている。



概要1ーデザインの意図

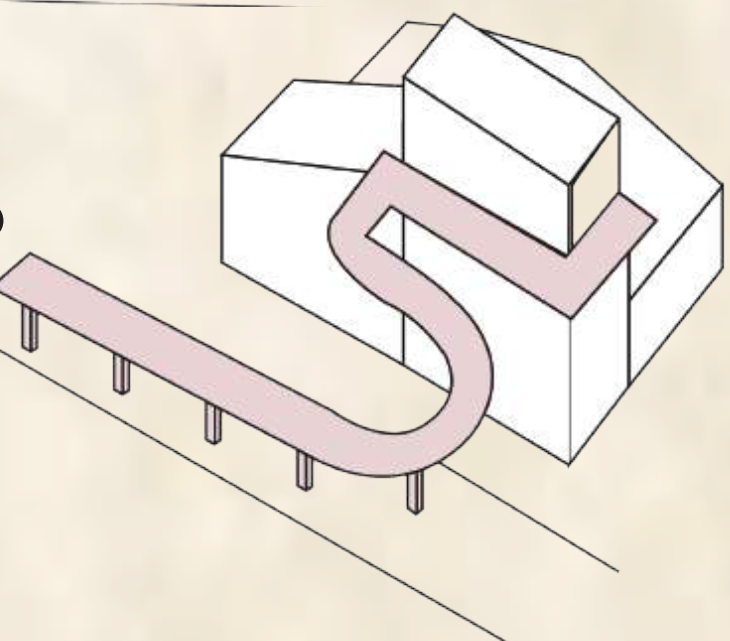
■松の湯のボリュームを川へ広げる

松の湯裏側のそとばたが松の湯と川の橋渡しとなる。外湯のボリューム感を保った空間を積層し、それぞれに異なる機能を与える。



■そとばたから川へつながる「5」

松の湯（5番湯）が川へとつながる「5」の動線をつくる。人がほとんど近づかなかった洪温泉の川を語らいが生まれる親水空間に。



概要2ー松の湯コミュニティの拡張手法

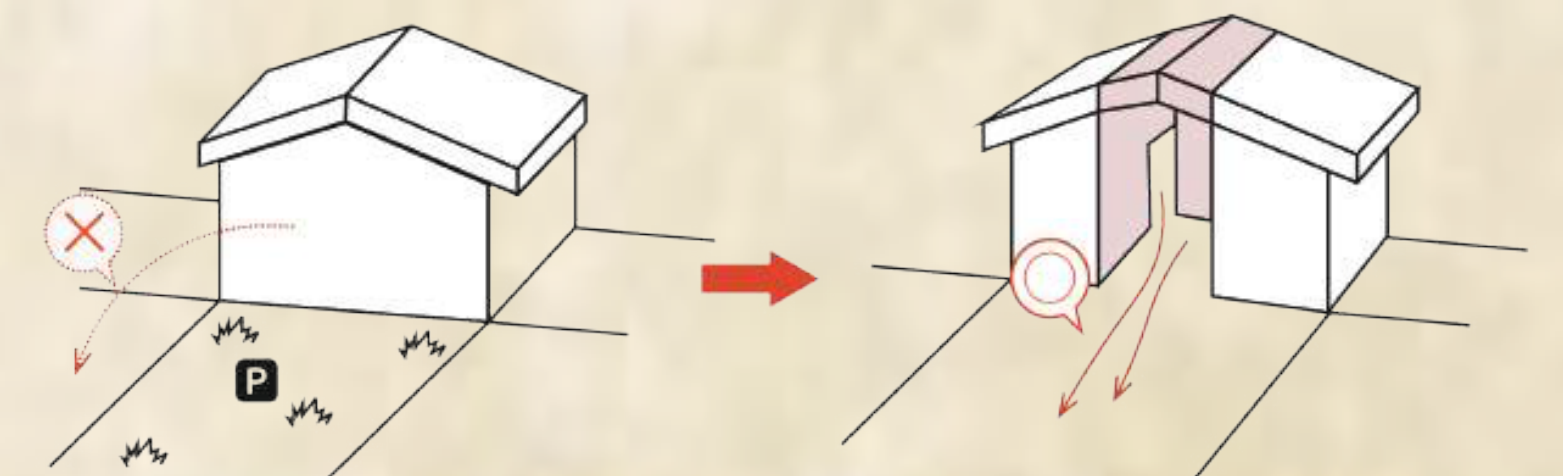
■そとばたでの語らいが移住のきっかけを生む

外湯で住民と出会った移住検討者は、そとばたで住民とともに外湯のマットを洗ったり、ワークスペースでの交流を通して親交を深める。

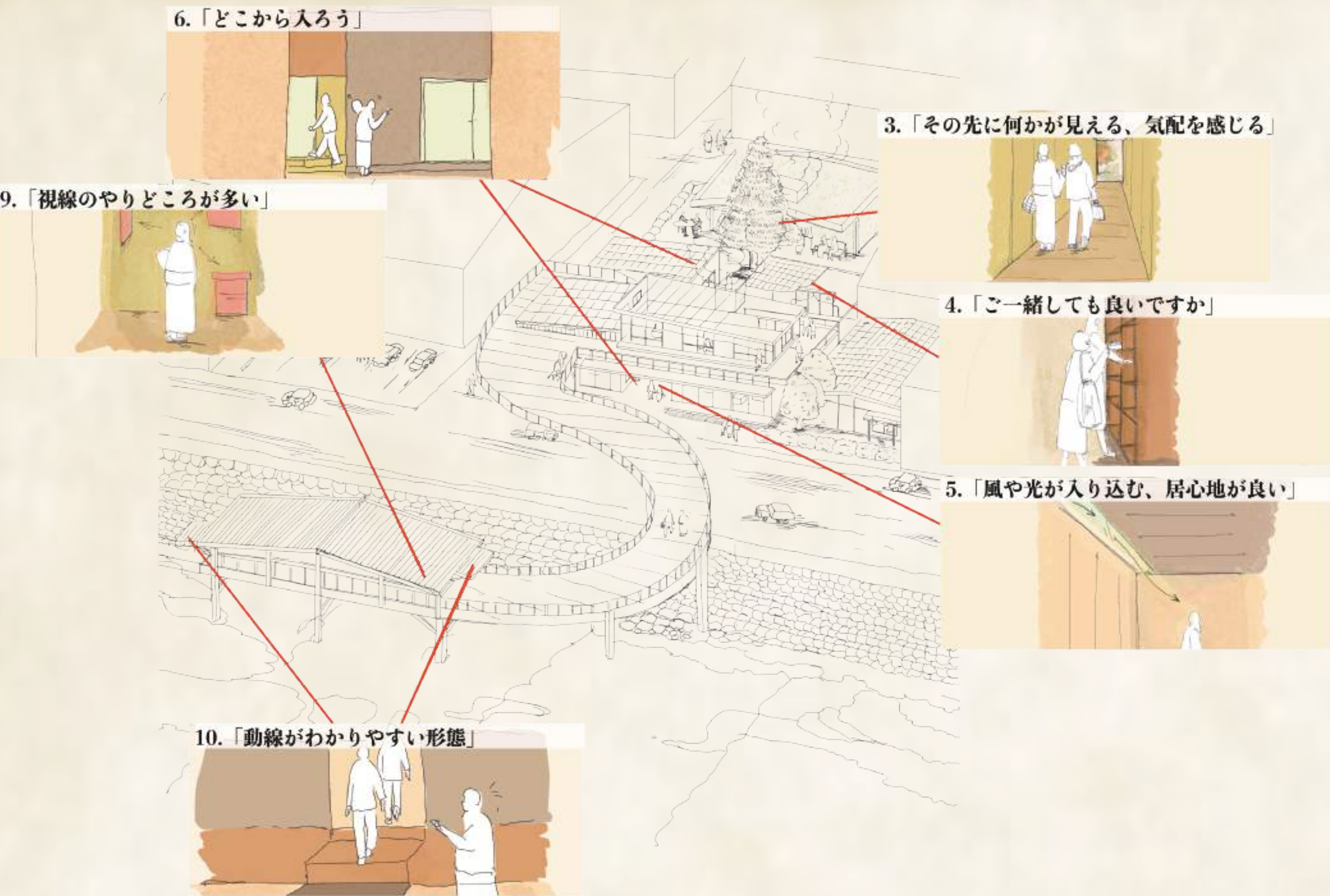


■松の湯の出入り口を増やす

出入り口を増設し、人の往来がなかった松の湯裏側に居場所を拡張する。



概要3- 語らいが生まれやすい空間要素の適用



スケッチ1- 3階へ向かう階段



南立面 1/100



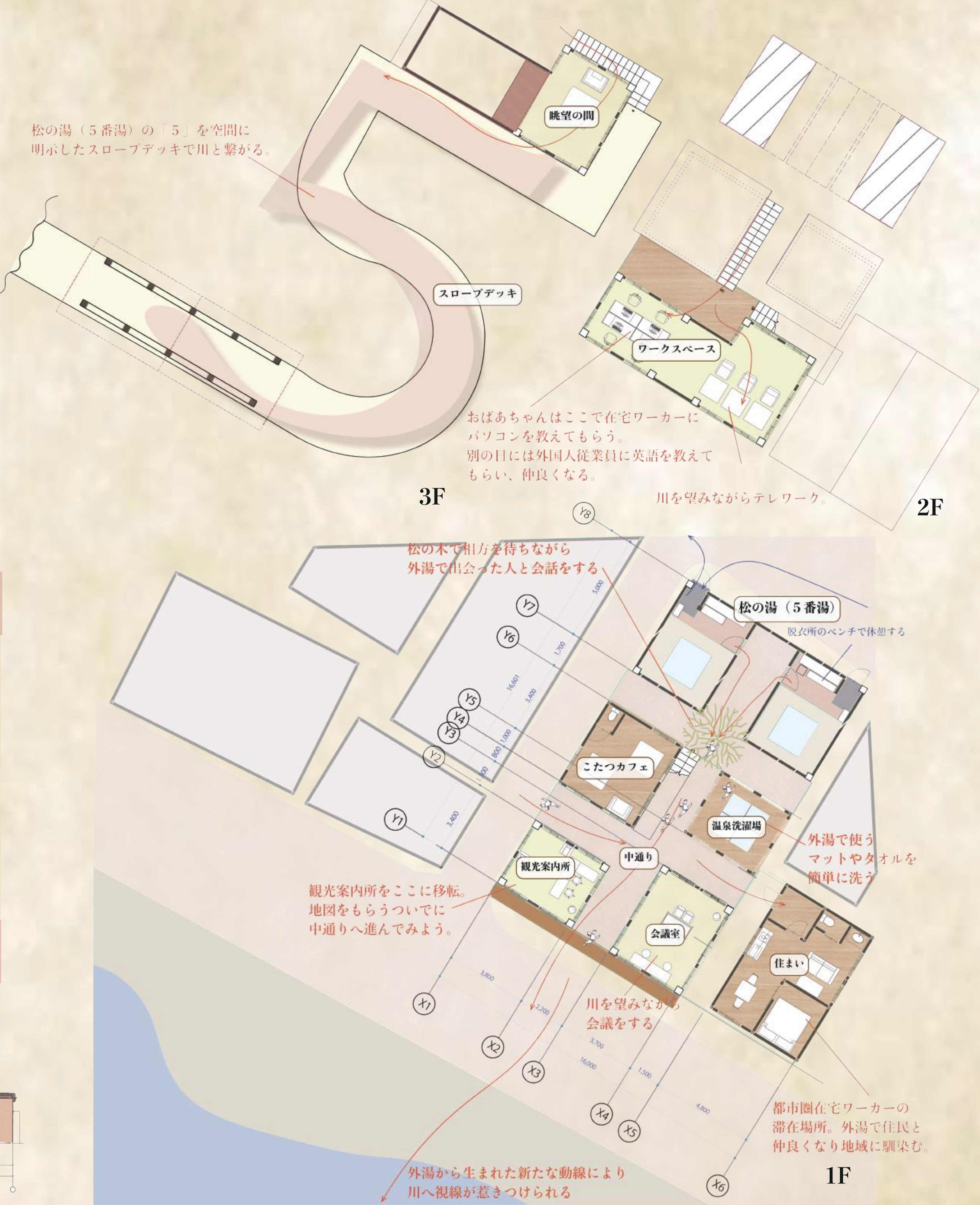
スケッチ2- そとばたで相方を待つ



東立面 1/100



配置図及び各階平面図 —：新しく生まれた活動 —：昔から変わらない活動



笹の湯（2番湯）そとばた
地域資源を味わいながら語らう

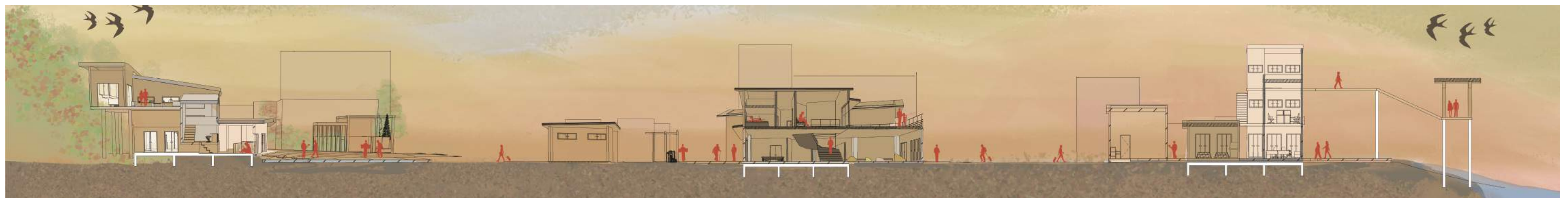


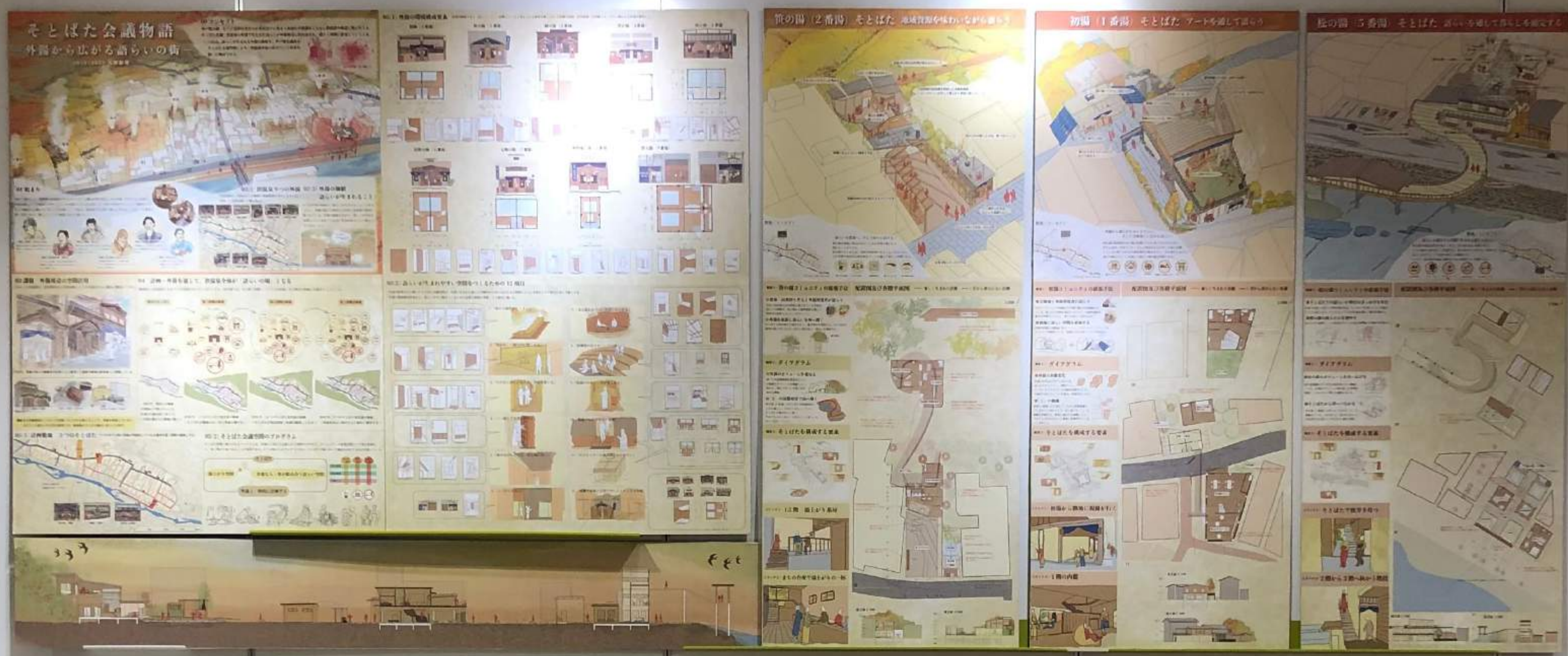
初湯（1番湯）そとばた
アートを通して語らう



松の湯（5番湯）そとばた
語らいを通して暮らしを補完する







この展示は、
「都市の未来」をテーマに、
都市計画、建築、環境、
社会などの分野から、
最新の研究成果や、
未来の都市像を、
わかりやすく、
楽しく紹介しています。

